

準備が進められている。結局、国民は2010年秋に〈3価ワクチン〉の接種を受ければ十分である。

d. 山のあなたの空遠く幸い住むと人のいう— A(H1N1)2009の流行の山のあなたにあるのは、使い残しの国内産ワクチンの山や、手つかずの輸入ワクチンの山の可能性もあるが、何よりも避けるべきは予防接種事故訴訟の山である！

避けるべき事態は、A(H1N1)2009インフルエンザの流行が下降の一途をたどり（表1）、逆にインフルエンザA(H1N1)2009〈単価ワクチン〉の重症副反応例、死亡例が蓄積していき、交差することである。このままいけば両者は間もなく交差し、国民のワクチン接種の意欲はさらに減退。ワクチンの需要は急降下するであろう。2010年1月29日第9回の出荷が行われた。これで38,417,320回分出荷された。全部で106ロットなので、残りは25ロットである。第10回出荷分までは国家検定が終了しており、11回出荷分から13回出荷分はこれから出検される。図10にA(H1N1)2009〈単価ワクチン〉累積出荷数・出荷予定数と累積推定接種者数を示す。接種者数は頭打ちになりつつある。問屋は不良在庫の山を築くの避けるので、必要な分だけ買って行く。ワクチンの在庫の山は販売会社に残るのであろうか。

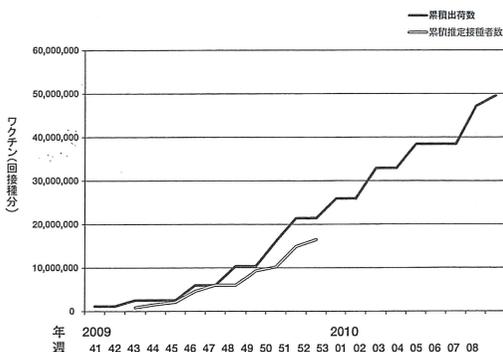


図10 A(H1N1)2009〈単価ワクチン〉累積出荷数・出荷予定数と累積推定接種者数 (2010年04週現在)

e. 落ちた偶像

さて、向後のシナリオは如何に？筆者には、劇の最終幕までのシナリオが既に出来ていて、そこに向かって、順々に着々と舞台が展開して

くる様に見える。次の幕は優先順位下位のグループの接種開始日の逐次繰り上げ、そして次は「十分なゆとりができたので、19～64歳の健常者にも国内産ワクチンを接種」できるというものである。新型登場劇の最終幕は何であろうか。根路銘はわが国だけが世界に先駆けて鳥インフルエンザワクチンを量産したと報告⁹⁾しているが、今度はそれをはるかに上回る量のA(H1N1)2009ワクチンが残ることになるのか。残るとすれば、売れ残った国内産ワクチンの山（国内産ワクチンの代金は4所社合計で259億円）が1つ。そして、手つかずの輸入ワクチンの大きな山（輸入ワクチンの代金は2社合わせて1,126億円）。その責任の所在はいつこにありや。（海外ワクチンの緊急輸入に至った経緯のところに引用した12月28日の産経新聞には、……北海道大学の喜田宏教授が「新型は季節性のAソ連型と共通する部分があり、1回接種で効果が得られることは予想できた。大量余剰の責任を誰が取るのか」と手厳しい。……との報道もなされた。）

最終幕は、「海外ワクチンを丸ごと発展途上国に無償で寄付する」場面である。国内でも使えないから発展途上国にあげようというのはいかなるものであろうか。「地球はひとつ、人類みな兄妹¹²⁾」である。^{注9}発展途上国の人達の中には、慢性の感染症を持つ人や栄養失調の人も多い。医療環境も整っていない。まさに社会経済的に「予防接種のハイリスク者」である。そのような国々に、既にヨーロッパ各国で死亡例、重大な副反応例が多発し、接種中止、不買運動が発生しているアジュバント添加A(H1N1)2009〈単価ワクチン〉を届けるのは、人道にもとる^{注10}。

f. うしろの山に捨てましょうか

このままいけば、売買契約に従って、2010年2月海外からアジュバント添加A(H1N1)2009〈単価ワクチン〉が日本に到着する。これは国家の財産であり（但し、年を越して保有しても税金はかからない）、有効期限が来るまでは廃棄できない。1月23日の新聞報道によれば、有効期限は半年～1年半であり、その間しかるべき倉庫に保管される。有効期限が切れたら、廃棄処分になるが、チメロサルが入っているの